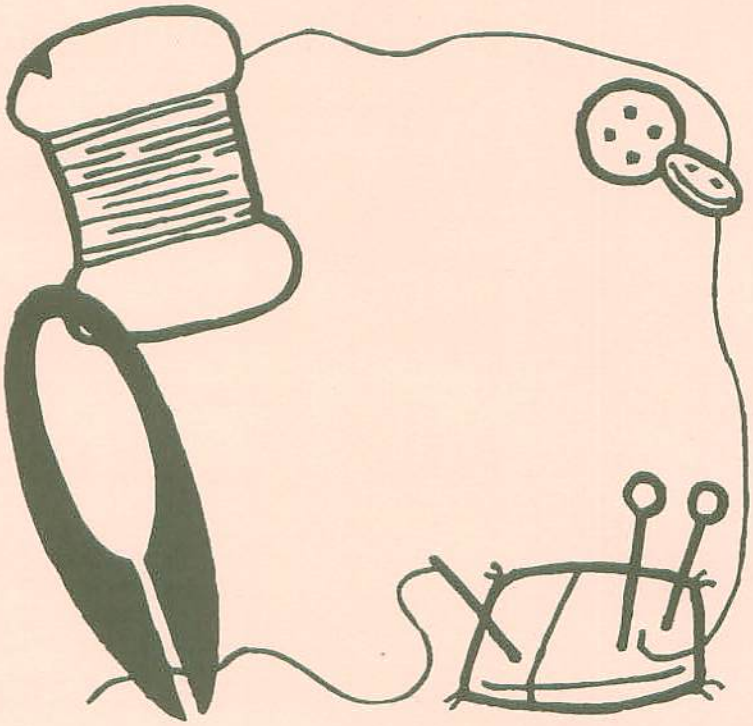
［生きる力］をはぐくむ技術・家庭科教育

～衣生活における実践的・体験的活動を通して
自己の変容を実感できる授業の構想と展開～



美祢市支部

［目　次］

題材の概要・・・・・・・・・・・・・・・・1

学習指導計画・・・・・・・・・・・・・・・2

授業の実践例及び考察・・・・・・・・・・3～6

その他の授業の実践例１・・・・・・・・・7～8

その他の授業の実践例２・・・・・・・・・9～１０

その他の授業の実践例３・・・・・・・・・１１～１３

その他の授業の実践例４・・・・・・・・・１４～１６

「衣服の選択と手入れ」学習指導計画・・・１７

ワークシート・・・・・・・・・・・・・・・１８～２１

家庭分野A分科会（必修提案）

美祢市支部

1　題材名　　「衣服の手入れと補修」家庭科A（生活の自立と衣食住）

2　題材の概要

(1) 題材の位置づけ

この題材は、小学校で学習する衣生活の知識をもとに実習を行った経験をもつ第２学年で履修する。衣生活の中で、最も必要性の高い衣服の手入れと補修について学習を進めることにより、実生活に生かせる知識や技能をみにつけさせることをねらいとしている。

衣服の手入れや補修は、生徒にとって大変身近なことである。しかし、これらのことは家族に頼ることがほとんどで、家庭での経験が少ないのが現状である。しかし、将来は、家族に頼ることなく、自らが衣服の手入れや補修を行う必要に迫られるであろう。そのため、自分で衣服の手入れができることへの喜びや楽しさを味わわせながら学習を進めて行くことができれば、生徒の意欲を継続させることができると考える。

(2) 題材の有効性

適時性：　思春期になると、人目につく衣服の汚れやほころびは何とかしたいと思うようになってくる。しかし、衣服の汚れやほころびを生徒が自分で修繕したくても、知識や技能がともなわないためあきらめる生徒もいる。そこで、このような時期に衣服の手入れや補修を課題として設定することは生徒の興味関心や必要性という面からも適時性があると考える。

実践性：　衣服の手入れや補修は、家庭において日常的に行われていることである。そのため、生徒がその内容や場面をイメージしやすく、身に付けた知識や技能を家庭での実践に結びつけやすい。その結果、生活の自立へと結びつけていくことが可能である。よって本題材は実践性があると考える。

個別性：　本題材では、衣服の手入れと補修について学習を行い、実生活に生かせる知識や技能を身につけさせることがねらいである。そのために、生徒全員に洗濯やまつり縫いができるように、その基本を生かし、生徒の生活に応じた技能を身につけさせることができるように、生徒個人の能力に応じた課題を用意した。このようなことから、本題材は個別性があると考える。

(3) 題材のもつ生活とのかかわり

衣服の手入れや補修は、衣服をいつでも快適に着用し、長く着られるようにするために欠くことのできないものであり、日常的に行われていることである。そのため、衣服の手入れや補修についての基本的な知識と技能を学ぶことにより、すぐに実生活の中で生かしていくことができる。そのため、この題材は生活課題に即効性のある題材であると言える。

(4) 学習指導計画（総時数　5時間）

次	小　題　材	実践的・体験的活動の工夫	評　価　内　容	指導と評価の一体化につながるポイント（自己の変容が実感できる場面の設定）	評価の手段	学習指導要　領
1	手入れの仕方を調べよう	・制服の手入れの仕方を調べさせる。	・手入れの種類と衣服の素材に適した手入れの仕方について理解することができる。	・自分の家でしている制服の手入れについて書いているか。 ・制服の取り扱い絵表示で手入れの仕方を調べまとめているか	ワークシートの提出	A（3）ウ
2	洗濯の仕方	・洗濯実習の具体的な計画を立てさせる。	・洗濯の方法を理解し、洗濯実習の計画を立てることができる。	・洗濯の方法を理解することができたか。 ・洗濯実習の計画を立てることができたか。	ワークシートの提出	A（3）ウ
3	洗濯実習	・くつ下を手洗いさせる。 水洗い 洗剤か石けん 重曹	・くつ下を手洗いすることができる。	・洗濯用剤の有用性が理解できたか。 ・くつ下がきれいに洗濯できたか。	観察 ワークシートの提出 自己評価カード	A（3）ウ
4	補修1 まつり縫い	・針をうつ位置に印をつけた布で実習させる。その後、印の量を選んで実習させる。	・まつり縫いをすることができる。	・まつり縫いをすることができたか。 ・丈夫にきれいに縫えたか。	観察 自己評価カード 実習布提出	A（3）ウ
5	補修2 ボタンつけ	・二つ穴ボタンつけの実習をさせ、次に好きなボタンを選んでつけさせる。	・ボタンをつけることができる。	・ボタンをつけることができたか。 ・丈夫にきれいにつけられたか。	観察 自己評価カード 実習布提出	A（3）ウ

これらの授業後、簡単な作品作りに取り組む予定である。作品作りを通して、今回の基礎的な技術の習得の成果が見られる予定である。

3　授業の実践例

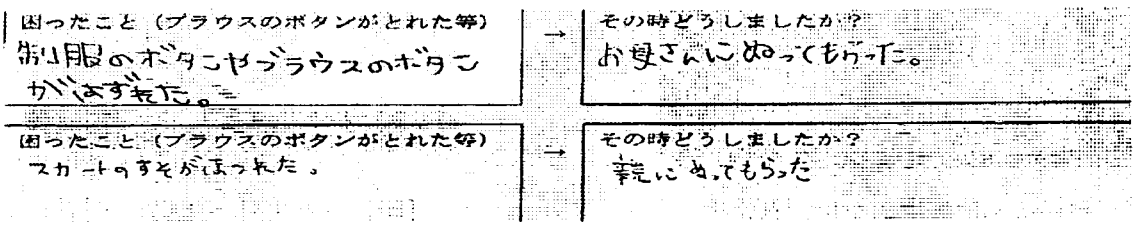
小題材　補修１　　まつり縫い・・・・・・・４／５時間
主　眼　まつり縫いの仕方を理解し、まつり縫いをすることができる。
準　備　実習布、まつり縫い拡大見本、まつり縫い実物大見本、師範用拡大布、
　　ワークシート（自己評価カード含む）（縫い針、縫い糸）

学習過程

	学　習　活　動	教　師　の　支　援 実践的・体験的活動の工夫	支　援　上　の　留　意　点 自己の変容を実感できる場面の設定と評価の方法
課題の意識化／課題の追求・解明／まとめ	1　衣服がほころんで困った時、どのように対処してきたか自分の経験を発表する。	・生徒のこれまでの経験を発表させ、どのように対処してきたかを振り返らせる。	・自分の経験をワークシートにまとめさせておく。
	2　まつり縫いの用途と特徴を確認する。	・自分の制服のスカートまたはズボンのすそを観察させ、ミシン縫いによるまつり縫いが用いられていることを確認させる。 ・実物大見本を観察させ、まつり縫いの特徴をあげさせる。 ＊表の糸の針目、裏の糸と糸の幅や傾き　など	・制服のスカートやズボンのすその始末に用いられている縫い方がミシンによるまつり縫いであるということをしっかりおさえておく。 ・生徒全員にまつり縫い実物大見本を配布する。
	3　まつり縫いの仕方を確認する。	・師範用拡大布を用いて、まつり縫いを数針やって見せる。	・まつり縫いのポイントをおさえながら師範を行う。
	4　印のついた布でまつり縫いをする。	・印の位置に針をささせ、１０針分練習させる。最初の２～３針は教師の師範に合わせて、縫い方を確認しながら針をささせる。	・自分でまつり縫いした布と実物大見本の両方を観察させ、まつり縫いができたことを実感させる。
	5　布の印の量を自分で選択し、まつり縫いをする。	・①印なし　②1/3 印のついたもの　③2/3 印のついたもの　の３種類の布の中から、自分の技量に合わせて選ばせ、選んだ布でまつり縫いをさせる。	・布の印の量を自分で選ばせることにより、各自の技量に合わせたまつり縫いの練習をさせ、課題を達成させるよう支援する。
	6　隣の友だちのまつり縫いした布を観察し、感想を記入する。	・実習布を交換させて観察させる。できるだけ友だちの良い点やこうするともっと良くなるというアドバイスを記入するように伝える。	・隣の机の生徒同士でお互いのまつり縫いを観察させ、感想を書かせる。（相互評価）
	7　自分の実習を振り返る。		・ワークシート（自己評価表）の記入により、まつり縫いの実習を通して感じたことなどについて振り返らせる。 ・まつり縫いをすることができたか丈夫にきれいに縫えたか（自己評価）をワークシートにまとめる。 ・まつり縫いした２枚の布を提出させ、教師による評価を行う。

4　考察

今回の授業では、事前に衣服がほころんで困った時、どのように対処してきたかということをワークシートにまとめさせておき、それを最初に発表することから始めた。生徒からは、下記に示すようなボタンがとれて親につけてもらった経験やスカートのすそがほつれて親に縫ってもらった経験などが出された。中には、くつ下に穴があいて目立たないように縫ったというような自分で対処した例もあったが、多くが親に縫ってもらったり、そのままにしておいたという内容であった。



そこで、本時に学習するまつり縫いは、スカートやズボンのすそがほつれた場合に用いる縫い方であることを知らせ、全員に見本を配布してその特徴を確認した。生徒は小学校でボタン付けや並縫いなどの基礎縫いをある程度経験しているが、まつり縫いについてはほとんどの生徒が初めてであった。しかし、まつり縫いはこれから先、生徒が衣生活において自立していくために、是非とも身につけさせておきたい技能である。しかしながら、生徒にとってはかなり難しい縫い方であるため、師範して見せる、縫い方をプリントに図示して説明するといった過去の指導方法では、縫い方を理解できず、課題を達成することができない生徒が一部に見られるというのが現状であった。

しかし、課題が達成できなければ技能は身につかないし、技能が身につかなければ実生活に生かすことができず、生活の自立へと結びつけることはできない。

そのため、この「補修１　まつり縫い」の小題材を仕組むにあたり、美祢市支部の家庭科教員４人で、どうすれば全ての生徒に「まつり縫いの仕方を理解し、まつり縫いをすることができる。」という課題を達成させることができるかいろいろと話し合った結果、次の４点について工夫し、実践してみることになった。その４点とは、

①生徒用の実物大見本を準備すること。
②わかりやすい師範用の拡大布を作成し、縫い方を師範しながら生徒に同じようやらせてみること。
③実習布に針をうつ位置の印を付けることで生徒が縫いやすいようにすること。
③印の付いた布でまつり縫いをした後、生徒各自が自分の技量に合わせて布の印の量を選択し、実習ができるようにすること。

である。

この４つの点を取り入れ授業を行ってみたところ、生徒はとても集中して実習に取り組み、最初の１０針分の印をつけた布を用いた実習では全員の生徒がまつり縫いの課題を達成することができた。布に印が付いていることにより、どこに針をさしたらよいのか、そして次はどこに針を出したらよいのかということがはっきり分かり、スムーズにまつり縫いを行うことができたようである。

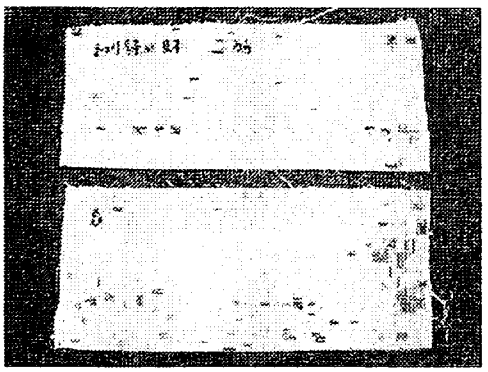
布の印の量を各自が選択して再度まつり縫いをする段階では、半分以上が１／３又は２／３印のついた布を選択するだろうという予想に反し、ほとんどの生徒が印のついていない布を選択してまつり縫いを行っていた。予想外ではあったが、印無しで縫ってみようという生徒の意欲がうかがえた。生徒にとっては、最初に印のついた布で実習したことで、まつり縫いの仕方をだいたい理解することができ、印が無い布でチャレンジしてみようという気持ちにつながったのかもしれない。

縫い目などのできばえにはばらつきがあり、印がなくても限りなく見本に近い状態に縫うことができた生徒もいれば、折り山のすくう深さが深くなってしまったり、表の針目が大きくなってしまったりといった生徒も見られたが、まつり縫いの仕方はどの生徒も理解できていた。

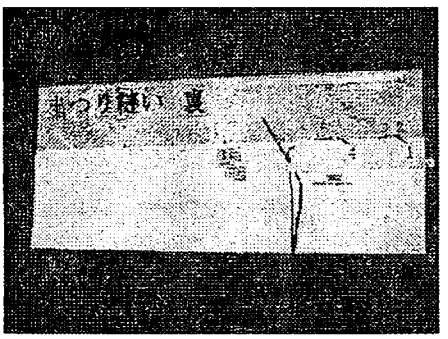
授業の最後に相互評価と自己評価を行う予定であったが、時間が押してしまい、相互評価については早く実習を終えたペアしかできなかった。しかし、相互評価をした生徒のコメントには「見本ととても似ていてすごいなーと思った。僕も見習ってがんばろうと思います。」や「縫い目の幅は全部同じで、よくできている。」などの感想が書かれていた。自己評価の感想では「自分では簡単だと思っていたけど、印無しの布では間隔が分からなくて難しかった。きれいにできるようにがんばりたい。」「表の部分が１ｍｍより大きかったので、練習して上手になりたいです。思っているより難しかったです。」「きたないけどまつり縫いができた。」など、印がある布の縫いやすさと印無しの布の難しさを実感しているもの、見本と比べて縫い目が大きかった点を、さらに練習して上手くなりたいといったもの、まつり縫いができたということに達成感を感じている様子などが書かれていた。

この授業で何よりもうれしかったことは、布に印をつけることで全員の生徒がまつり縫いをすることができたことと、交流学習で授業を受けている特別支援学級の生徒も実習に集中して取り組み、２／３印のついた布を選んで、最後まで正しい縫い方でやり遂げることができたことであった。難しい縫い方も、教師側が少し工夫をすることで生徒の達成度が大きく変わってくるということを痛感させられた。生徒自身が「まつり縫いができた」という実感が持てることこそ、実生活に生かすということにつながるのではないかと思う。そのためにも、授業者の工夫や準備の手間を惜しんではならないのだということを心に刻み、これからも実践していきたいと思う。

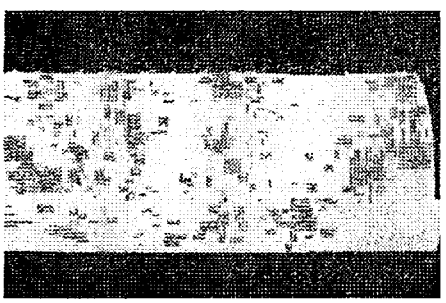
【生徒用まつり縫い実物大見本】



【師範用拡大布】

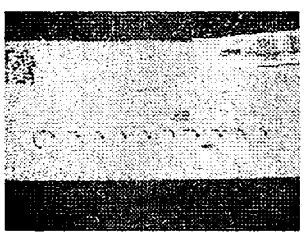


【針をうつ位置に印を付けた実習布】

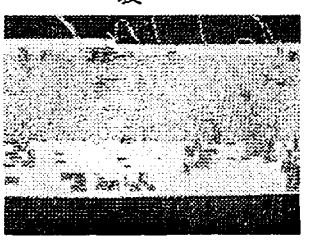


【印にそって縫った実習布】

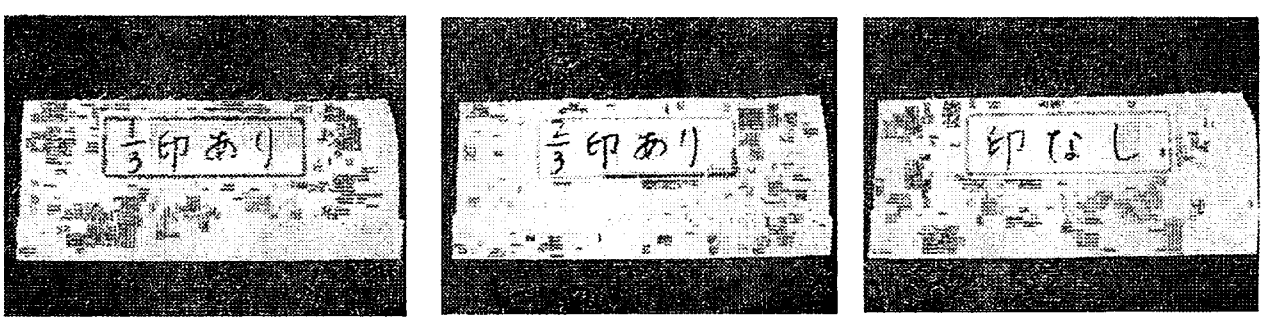
表



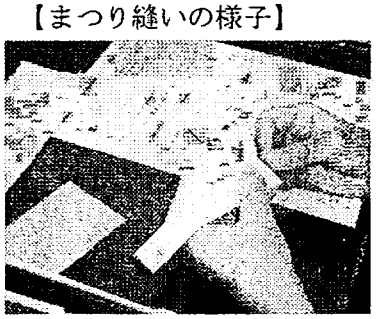
裏



【自分の技量に合わせて印の量を選択できるように準備した実習布】

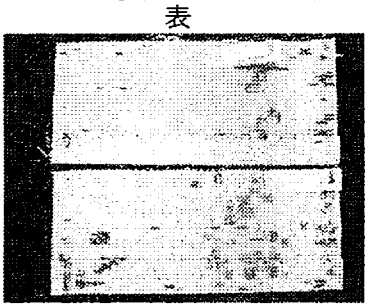


【まつり縫いの様子】

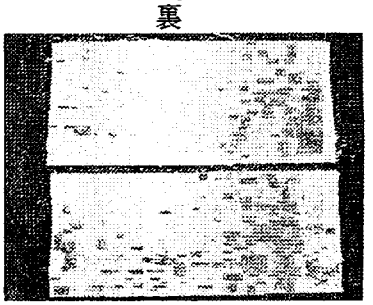


【印１／３でチャレンジした実習布】

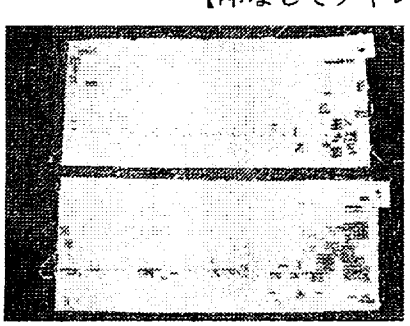
表

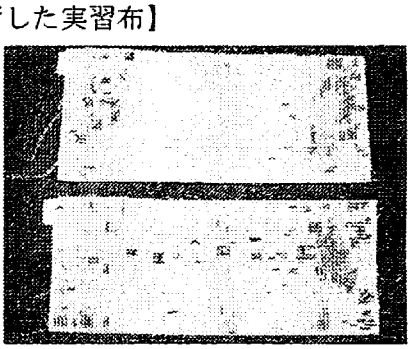


裏



【印なしでチャレンジした実習布】





【生徒が記入したワークシート（自己評価カード）】

衣服の手入れと補修をしよう　　補修１　まつり縫い

（　　）番　氏名（　　）

1，今までに、自分の衣服のボタンがとれたり、スカートやズボンのすそがほつれたりして困ったことはありませんか。また、あなたはその時どうしたかをくわしく書きましょう。

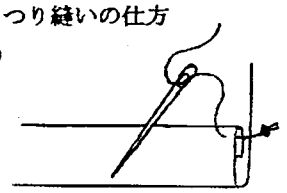
困ったこと（ブラウスのボタンがとれた等）	→	その時どうしましたか？
服のボタンがとれた		自分でつけた

2，スカートやズボンのすそがほつれた場合に用いる縫い方を覚えよう。

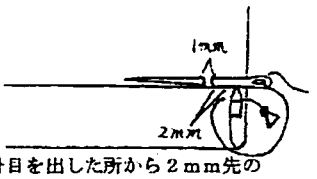
☆スカートやズボンのすそがほつれた場合に用いる縫い方　→　まつり縫い

☆まつり縫いの特徴
・表の糸の針目→（1mmの点線のようになっている。）
・裏の糸と糸の幅や傾き→（糸がななめにかかっていて同じ間かくにならんでいる。）

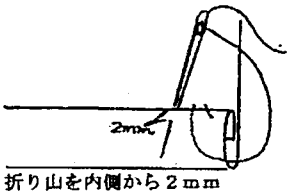
3，まつり縫いの仕方

①


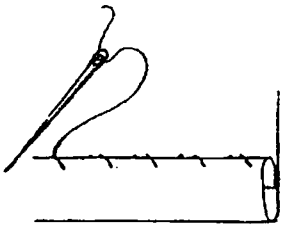
折り山の中に玉結びをかくすように一針目を出す。

②


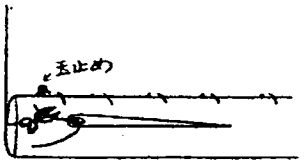
一針目を出した所から２mm先の折り山のすぐ上の布を真横に１mmほどすくう。

③


折り山を内側から２mm（1～2mm）の深さで手前にすくう。

④


針目が１cm（0．8～1cm）間かくになるように縫っていく。

⑤


最後は、折り山のすぐ上の布を１mmほどすくった後、玉止めをし、折り山をすくって針をぬき、糸を切る。（こうすると玉止めが折り山の中にかくれる。）

友だち（　　）からの感想（良いところや頑張っていたところ、アドバイスなど）

さんのは見本とととても似ていてすごいなあーと思いました。
ぼくも見習ってがんばろうと思います。

自己評価表						
	1，まつり縫いをすることができましたか。		5	④	3	2	1
	2，じょうぶにきれいに縫えましたか。		5	④	3	2	1
	3，まつり縫いの仕方がわかりましたか。		⑤	4	3	2	1
	4，あなたの選んだ印の量は？	印無し	1/3印がついている		2/3印がついている	
	5，まつり縫いの実習を終えての感想					

表の部分が1mmより大きかったので練習して上手になりたいです。
思っていたより難かしかったです　でもとても上手にできていました。くり返し縫えると手が慣れてさらに上手に縫えるようになるので手伝練習してみて下さいね。

5　その他の授業実践例１

小題材　手入れの仕方を調べよう・・・１／５時間

主　眼　手入れの種類と衣服の素材に適した手入れの仕方について理解することができる。

準　備　ワークシート、制服（冬服上着）、取り扱い絵表示一覧表

学習過程

	学　習　活　動	教　師　の　支　援 実践的・体験的活動の工夫	支　援　上　の　留　意　点 自己の変容を実感できる場面の設定と評価の方法
課題の意識化／課題の追求・解明	1　衣服の手入れにはどのようなものがあるか考える。	・自分が知っている衣服の手入れの種類や、やったことのある手入れを発表させる。 洗濯、クリーニング、ボタン付け、しみ抜き、アイロンかけ等	・自分の日頃の生活の中で行われている衣服の手入れについて思い出させる。
	2　自分の家で行っている制服の手入れの仕方について調べる。	・自分の制服を家でどのように手入れしているかを振り返り、具体的にワークシートに記入させる。	・簡単に書いている生徒についてはできるだけ具体的にかけるよう支援する。
	3　家で行っている制服の手入れの仕方を発表する。		・自分の家でしている制服の手入れについて書いているか、ワークシートを提出させて確認する。（教師による評価）
	4　制服の取り扱い絵表示を見て、手入れの仕方を調べる。	・実際に、自分の制服についている取り扱い絵表示を書き出させ、取り扱い絵表示の意味を示した一覧表を見て、記されている絵表示の意味を調べて記入させる。	・制服の取り扱い絵表示を見て手入れの仕方を調べ、まとめることができたか、ワークシートを提出させて確認する。（教師による評価）
／まとめ	5　制服の手入れの仕方を調べてみてわかったことなどをまとめる。	・家庭での制服の手入れの仕方と、制服の取り扱い絵表示に示されている手入れの仕方を調べてみて、新しく発見したことやわかったこと、感じたことなどをワークシートにまとめさせる。	・制服の手入れの仕方を調べてわかったことを記入させる。（自己評価） ・新しく発見したことやわかったこと、感じたことなどをワークシートにまとめさせることにより、自己の変容を実感させる。

考察

多くの生徒は、衣服の手入れというと「洗濯」が一番に頭に浮かんだ。しかし、実際に家庭で洗濯をしている生徒はごくわずかで、家の人に頼っているというのが現状であった。

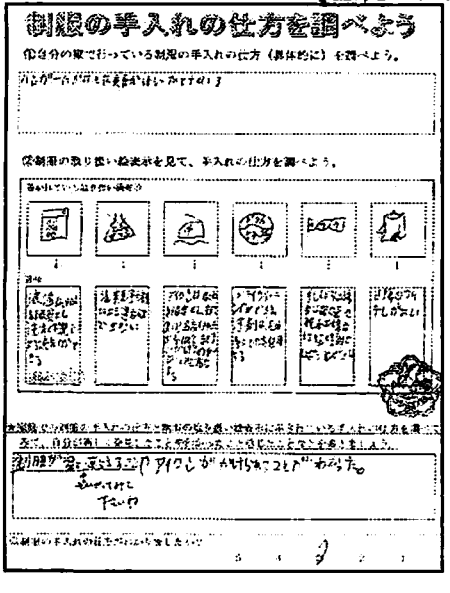
今回の授業は、生徒が毎日学校生活で着用している制服の手入れを題材にすることで、衣服の手入れをより身近なもの、自分に必要があることとして感じさせることができるのではないかと考えた。制服は毎日着ているものではあるが、特に冬服は「家庭で手入れしにくいもの」というイメージが強い。そこで、家庭で行っている制服の手入れの仕方と、制服についている取り扱い絵表示に示されている手入れの仕方を調べることで、衣服の素材に適した正しい手入れの仕方を知り、家庭において、学習して得た知識を生かしてよりよい手入れを行うことができるのではないかと考えた。

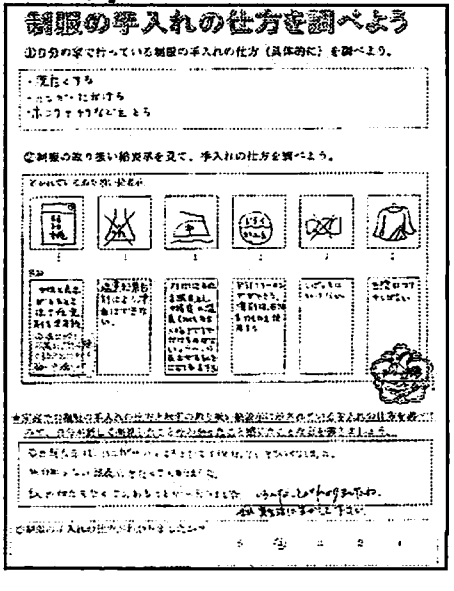
生徒の多くは、制服は家庭では洗えないものと思っていた。そのため、日頃はハンガーにかけて保管するか、ブラシをかける、臭い取りのスプレーをかけるといった手入れをし、季節の変わり目にクリーニングに出すという方法がほとんどであった。しかし、最近の制服は家庭において洗濯機で洗濯できるものが多い。一番最初に記されている洗い方の絵表示に洗濯機のマークが書かれ、洗濯機による洗濯ができるということがわかると「そうなんだ」といった反応が見られ、意外なことを発見したという様子がうかがえた。そこで、「絵表示に記されている手入れの仕方を守って行えば、制服は家庭でも洗濯できるので、汚れたなと思ったら週末に中性洗剤と洗濯ネットを使って洗ってみよう」と投げかけた。

生徒に学習について振り返らせ、自己の変容を実感させるために、最後にワークシートに「家庭での制服の手入れの仕方と、制服の取り扱い絵表示に示されている手入れの仕方を調べてみて、自分が新しく発見したことやわかったこと、感じたこと」という欄を設け記入させた。そこには、「クリーニングに出さなくても洗濯機の弱水流で洗えばいいという事を初めて知りました。家でも取り扱い絵表示を参考に自分でも洗ってみたいと思います。」や「私はいつもハンガーにかけるだけで、洗たくやアイロンなどはぜんぜんしたことがないので、びっくりでした。こんど、家でも制服を洗ってみたいです。」といったことが書かれていた。また、この授業の後、実際に家で絵表示を見て制服を洗たくしてみた、最近は制服をきちんとハンガーにかけておいているなど、学習したことを早速家庭で実践してみた生徒もいた。

この事から、制服の手入れの仕方を調べるという学習は、題材がとても身近なものであるため、生徒にとって衣服の素材に適した手入れの仕方を理解することや制服を自分で手入れしてみるという生活への実践力つながる内容であったと感じた。制服が家庭で洗濯できるということは、生徒にとっても制服をいつも快適な状態で気持ちよく着ることができるということにつながるため、そういう意味でもこの学習はとても効果があったと感じている。しかし、取り扱い絵表示の多さに、「家での制服の手入れは難しい。」と感じている生徒もいたため、そういった生徒への個別のフォローもきちんとしていかなければならないと思う。

【生徒が記入したワークシート】





6　その他の授業実践例２

小題材　洗濯の仕方・・・・・・２／５時間

主　眼　洗濯の方法を理解し、くつ下の洗濯実習の計画を立てることができる。

準　備　ワークシート

学習過程

	学　習　活　動	教　師　の　支　援 実践的・体験的活動の工夫	支　援　上　の　留　意　点 自己の変容を実感できる場面の設定と評価の方法
課題の意識化／課題の追求・解明／まとめ	1　洗濯機による洗濯の仕方を確認する。		・洗濯機による洗濯の仕方をワークシートにまとめさせながら、洗濯の仕方を確認する。
	2　洗濯機洗いだけによる洗濯を繰り返したくつ下の汚れの蓄積の状態を知る。	・洗ってはいるが、洗濯機洗いだけのため、汚れがよく取れずに蓄積してしまったくつ下の見本を見せて、状態を確認させる。 ・次の時間に自分のくつ下の洗たく実習をすることを伝える。	
	3　くつ下の手洗いの仕方を具体的に考える。	・つく下を手洗いする場合の一般的な手順を、一つずつ確認する。	・洗濯機による洗濯の仕方を振り返らせる。
	4　洗濯用剤を選ぶ。	・洗剤か石けんのどちらかを選ばせる。また、選んだ理由を書かせる。	・洗濯機による洗濯の仕方をワークシートにまとめさせ、洗濯の仕方を理解することができたかワークシートを提出させて確認する。（教師による評価）
	5　くつ下の洗濯実習の具体的な計画を立てる。	・①水洗いのみ、②洗剤または洗濯石けんで洗う、③水洗いのみしたくつ下を重曹を使って洗うという３つの方法で洗うことを知らせ３つの洗い方ごとに具体的な計画を立てさせる。	・①水洗いのみ　②洗剤または洗濯石けんで洗う　③水洗いのみしたくつ下を重曹を使って洗うという３つの方法の洗濯実習の計画を具体的に立てることができたか、ワークシートを提出させ確認する。（教師による評価）
	6　次時の学習について確認する。	・次の時間に洗濯実習を行うことを再度確認し、替えのくつ下を持ってくることを伝える。	

考察

授業の最初に、全自動洗濯機と二槽式洗濯機による洗濯の仕方を確認したが、多くの生徒の家庭では全自動洗濯機が使用されており、洗濯物と洗剤を入れてスイッチを押せばＯＫという状態のため、スイッチを押した後、どのような手順で洗濯がされているかはよく理解できていない生徒や洗濯機を一度も自分で使ったことがないという生徒もおり、家庭科の授業で洗濯機の使い方を実習させておく必要性も少し感じた。

今回の授業は、次の時間に行うくつ下の洗濯実習の計画を立てるという内容であった。くつ下を手洗いする洗濯実習という題材を用いた理由は、洗濯機による洗濯実習は同じ時間に全生徒に同時にさせることは不可能であるが、手洗いであれば全員が同時に行うことができること、くつ下は生徒が毎日着用するもので汚れがひどいことや、洗濯機で洗っただけでは汚れがしっかり落ちないため、手洗いによる効果を実感しやすいこと、履いてきたくつ下を洗濯させるため、洗濯するものを忘れるということがないこと、特別な道具を必要としないため、家庭でも簡単に実践できることなどである。

計画を立てる前に、手洗いする場合の手順を全体で確認し、３つの方法毎に計画を立てさせたが、生徒は頭の中で洗濯の手順を思い浮かべながら計画を立てていた。分からないときには周囲の生徒に聞くなどしてワークシートへの記入を行っていた。

今回は洗剤と石けんの二つの用剤から、自分が使用する用剤を選択させたが、この洗濯用の用剤を自分で選ばせることで、家庭で洗濯をするときにどんな用剤を用いるかという実践につなげていくことや、生徒の考えに個別性を持たせることができるのではないかと考えた。ワークシートからは環境への配慮や普段あまり使うことがないという理由から石けんを選んだ生徒、家でいつも使っているからと洗剤を選んだ生徒など、様々な選択理由が書かれていたが、トータルでは石けんを選んだ生徒の方が多かった。

この実習の計画を立てるという学習は、次の時間にくつ下を洗濯するというはっきりとした目標があるため、生徒も実際には行わない実習の計画とは違い、多くの生徒が意欲的に、また具体的に想像しながら計画を立てることができた。しかし、わずかではあるが、時間不足で３つの方法のうち１つか２つの方法の計画しか立てられない生徒もいたため、個別にアドバイスをするなどして時間内に立て終えることができるように工夫することや次の実習までに計画を立てさせ、実習がスムーズに行えるようしておくことが大切であると感じた。

【生徒の記入したワークシートの一部】

作業の手順	①水洗いのみの場合	②石けん又は洗剤で洗う場合	③重そうで洗う場合
	1 準備（たらいに水を入れる。）	1 準備	1 準備
	2 もみながら洗う。	2 石けんをつけ もみながら洗う。	2 重そうをつけ もみながら洗う。
	3 しぼる。	3 しぼる。	3 しぼる。
	4 すすぐ。	4 すすぐ。	4 すすぐ。
	5 しぼる。	5 しぼる。	5 しぼる。
	6 干す。	6 干す。	6 干す。
		《選んだ用剤とその理由》 用材（石けん） 理由 家で石けんで洗っているから。	

7　その他の授業実践例３

小題材　洗濯実習・・・・・・３／５時間

主　眼　くつ下を３つの方法で手洗いすることができる。

準　備　くつ下、替えのくつ下、洗濯用石けん、洗剤、重曹、洗面器、ワークシート（自己評価表含む）

学習過程

	学　習　活　動	教　師　の　支　援 実践的・体験的活動の工夫	支　援　上　の　留　意　点 自己の変容を実感できる場面の設定と評価の方法
課題の意識化	1　前時に立てた、くつ下の洗濯実習計画表を見て、洗濯の手順を確認する。	・１時間の実習の流れを黒板に示す。	
	2　くつ下の汚れの様子と臭いを調べて記入する。	・自分のくつ下を脱いで、汚れと臭いを観察させる。	・汚れや臭いの状態を細かく記入させ、洗濯後の変化を実感しやすいように支援する。
／	3　洗濯の準備をする。	・必要なものを準備させる。	
課題の追求・解明	4　片方のくつ下を水だけで手洗いする。	・汚れと臭いの落ち具合を観察させ、計画表に記入させる。	・洗濯する前のくつ下と洗濯後のくつ下を観察させ、洗濯ができたことを実感させる。
	5　もう片方のくつ下を石けん又は洗剤で手洗いする。	・洗濯用剤の有用性に着目させながら、結果を記入させる。	・くつ下の洗濯ができたか、評価表に記入させる。（自己評価） ・洗濯用剤の有用性が理解できたか、ワークシートを提出させて確認する。（教師による評価） ・３つの方法でくつ下を洗濯することができたかを教師による観察とワークシートの提出により確認する。（教師による評価）
	6　最初に水洗いだけしたくつ下を重曹を使って手洗いしする。	・最初に水だけで洗ったくつ下の汚れや臭いが重曹を使って洗うことでどのように変化したかに着目させ、結果を記入させる。	
／			・重曹を使用することで、環境に配慮した洗濯の実践についても考えさせる。
まとめ	7　後片付けをし、自己評価と感想を記入する。		・ワークシート（自己評価表）の記入により、くつ下の洗濯実習について振り返らせ、自己の変容を実感させる。
	8　くつ下を干す。		

考察

このくつ下の洗濯実習では、ほとんどの生徒が意欲的に実習に取り組み、くつ下の汚れを落とそうと一生懸命になっていた。

今回３つの方法でくつ下を手洗いさせたが、まずは片方のくつ下を水だけで手洗いすることによって、手でもむことでどれ位汚れや臭いが落とせるか実感できるであろうと考えた。そしてもう片方のくつ下を石けん又は洗剤を用いて手洗いすることで洗濯用剤の有用性を実感させ、最初に水だけで洗ったくつ下を環境に優しいとして最近注目されている重曹を用いて洗うことで、どのような効果があるかを体験させ、環境に配慮した洗濯についても考えさせたいと思い計画した。

生徒は水洗いだけではどんなに手でもんでも、汚れや臭いを落とすことには限界があることを感じていた。その反面、洗濯用剤を用いて手洗いすると汚れや臭いがしっかり落ち、しかも、洗濯機洗いだけでは落とすことができなかった、今までにたまった汚れまで落とすことができ、感動している様子がうかがえた。そして３つめの方法では、生徒は「重曹を用いて洗うとどうなるのだろう。」とあまり予想できない結果を楽しみにしながら実習に取り組んでいた。

重曹を用いて洗濯した結果としては、多くの生徒が「汚れは思っていたほど落ちなかったが、臭いがとれてびっくりした。」という感想を述べていた。重曹の洗濯における効果として、市販の重曹の入れ物に書かれた説明書には「重曹と洗剤を合わせて使用することにより、汚れ落ちがよくなり、洗剤の量を減らせる」とあった。しかし、片方のくつ下の洗濯で洗剤の量を減らせる効果というのはあまり実感させられないかもしれないと考え、重曹だけで洗うとどんな効果があるかやらせてみようということになった。そこでこの方法で実践させてみた結果、臭いが落とせるという効果を実感することができた。実習の結果から、生徒の意識を洗剤を減らせるということにつなげることはできなかったが、汗とくつの中の蒸れで臭いがきつくなりがちなくつ下の悪臭を、すっきりと消してくれる重曹の効果は、生徒の心の中に印象深く残ったようである。

今回のくつ下の洗濯実習を終えて、生徒は「家では洗濯機にまかせてました。でも、なかなか汚れはのきません。今日、手洗いでやってみると細かい所の汚れもとれてとてもきれいになりました。手洗いは時間がかかるから面倒くさいと思っていたけど、今日実際にやってみて手軽にできるなと思いました。またやってみたいです。」や「重曹で臭いがとれたのでびっくりしました。」「初めて手洗いでくつ下を洗ってみて、かなり汚れが落ちたのですごかったです。こするうちに楽しくなりました。」「石けんはやればやるほど落ちたので楽しかった。」などの感想を述べていた。

多くの生徒が今回の実習を通して、洗濯用剤を用いて手洗いすれば、洗濯機で洗うよりも汚れが落ちることを実感し、洗濯用剤の有用性や手洗いの効果を理解することができていた。

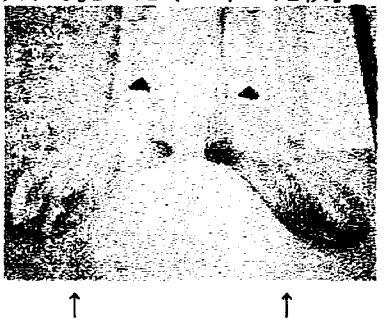
生徒にとって毎日の生活に密接に関係している今回の学習は、くつ下の洗濯という実践的活動を通して自己の変容を実感できることにつながったのではないかと感じている。

この学習を日頃の生活に生かし、くつ下をよりきれいな状態で長く使用できるように、事後指導にも力を入れて行きたいと思う。

【洗濯実習前にくつ下の汚れの状況を記入】

【洗濯実習の様子】

【水洗いのみしたくつ下と石けんで洗ったくつ下の比較】



↑ 水洗いのみ　↑ 石けん洗い　↑ 石けん洗い　↑ 水洗いのみ

【生徒が記入したワークシート（自己評価カード）】

番　氏名（　　）

衣服の手入れと補修をしよう《洗濯》

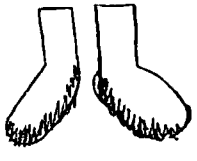
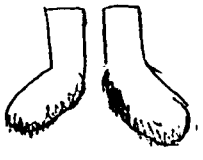
1、洗濯機による洗濯の手順をまとめよう。

《手順》

（1準備）→（2点検・分類）→（3本洗い 脱水）→（4すすぎ・脱水）→（5乾燥）→

（6仕上げ）→（7見直し）→（8収納・保管）

2、くつ下を洗濯しよう。【くつ下の洗濯実習】　　実習日 7月12日（木）

くつ下の洗濯をしよう			
汚れのようす	【右足】  くさい　【左足】  くさい	必要な用具・用剤	・洗面器 ・石けんまたは洗剤 ・重そう
作業の手順	①水洗いのみの場合 1 準備 2 水にぬらす 3 洗う 4 しぼる 5 すすぐ 6 しぼる	②石けん又は洗剤で洗う場合 1 準備 2 水にぬらす 3 石けんをつけて洗う 4 しぼる 5 すすぐ 6 しぼる 《選んだ用材とその理由》 用材（石けん） 理由 泡がたつのがはやい気がするから	③重そうで洗う場合 1 準備 2 水にぬらす 3 重そうをつけて洗う 4 しぼる 5 すすぐ 6 しぼる
結果	においはとれたけど よごれはとれない。	とても白くなった。 においもなくなった。	においはとれた。 よごれはまあまあとれた。
自己評価	①手順にそって洗濯することができましたか。 5 (4) 3 2 1 ②きれいに洗いあげることができましたか。 5 (4) 3 2 1 ③くつ下の洗濯の仕方がわかりましたか。 (5) 4 3 2 1	感想 手洗いで洗ったら洗たく機より、すごくよくとれることがすごく感動しました。 重そうは一度家でやってみたいとおもいます。できればくつ下は手洗してみたいです。 ぜひ洗ってみて下さい!!	

7　その他の授業実践例4

小題材　　補修２　ボタン付け・・・・５／５時間
主　眼　　ボタン付けの仕方を理解し、ボタン付けをすることができる。
準　備　　ビデオ、ボタン付け実物見本（人数分）、拡大見本、練習布、ワークシート
学習過程

	学習活動	教師の支援 実践的・体験的活動の工夫	支援上の留意点 自己の変容を実感できる場面の設定と評価の方法
課題の意識化／課題の追求・解明／まとめ	１ボタンつけで困った経験を発表する。		・ボタンで困った時、どうしたかプリントにまとめる。
	２ボタンを付けてみよう。	・今までの経験を生かし２つ穴ボタンを付けてみる。	・説明をしないで、何も見せずに２つ穴ボタンをつけさせ、互いに交換して感想を伝えあう（生徒同士による相互評価）
	３ボタン付けのポイントを確認する。	・実物見本を配布しよく観察をさせ、ポイントはどこかをおさえる。	・実物見本と比べながら、一回目のボタン付けを自己評価する。
		・ビデオで付け方を確認する。 ・実際のボタンで試技を再度確認させる。	・自分がよく分からなかったところや上手くできなかったところをプリントでチェックしてビデオ等で確認させる。
	４もう一回２つ穴ボタンを付けてみる。	・２度目のボタン付けをさせる。	・付け終わったら、自分で観察し一回目と比べてみる。（自己評価）
			・互いに交換して感想を伝え合う。（生徒による相互評価）
	５自分で選択したボタンを付けてみる。	・四つ穴ボタンや飾りボタンなどいろんなボタンを付けてみる。 自分の技量に応じていくつボタンを付けられるかチャレンジする。	・ボタン付けの方法を理解できたか。 ・ボタン付けを丈夫にきれいにつけることができたか。（自己評価） ・いろんな種類のボタンをつけることができたか。（自己評価） ・ボタン付けの布を提出させる（教師による評価）
	６学習の振り返り。	・最初に付けたボタンと２回目以降を比べさせて自己の変容を実感させる。	

4　考察

ボタンは生徒が日常的に着用している制服や普段着に多く使用されており、ボタンが取れてしまって困った経験は、ほとんどの生徒が体験している。しかし、日常的に自分でボタンを付けている生徒は希である。既製服が手ごろな価格で入手しやすい昨今であっても、ボタン付けは日常的に行われている補修であり、一度身に付けた技は一生使うことができる。ささやかであっても自分のことが自分で出来るようになることは、「生きる力」をはぐくむことにつながってくると思われる。

最初、自分の経験だけを頼りに２つ穴ボタンを付けさせてみた。小学校の復習、技量の定着と日常での経験の度合いをはっきりさせるためでった。また、生徒にとっては今の自分の技量を確認する場面となった。正しい付け方でボタンが付けれた者は少数で、足に糸が巻いていない生徒がほとんどであった。中には、全くボタンを付けることができなかった生徒もいた。生徒は付けたボタンを互いに見せ合ったり見本と見比べたりして、出来映えを比べていた。

ビデオで大きなボタンの付け方をみたり、ボタンには足があるなどの説明には「そうかぁ」と、感心した様子を見せていた。小さなボタンであってもちゃんと理論があることに驚いたようである。

生徒一人ひとりに完成見本を配布したり、ビデオでの視聴、プリント、実際のボタンでの試技など繰り返し付け方を説明した。生徒はボタンの付け方が理解できた段階で順次、２回目のボタン付けにとりかかった。２回目がすんなりできた生徒には、その他のボタンを出来るだけたくさん付けるように指示を出すと、飾りボタンや４つ穴ボタンに意欲的に挑戦していた。早い生徒はビデオを一回見ただけで付け方を理解する生徒がいる反面、何回も説明が必要な生徒もいる。先生コールが頻繁になると他の生徒や全体を見ることが出来なくなるため、ビデオや完成見本を自分で見てもいいよと声をかけておくと自分で確認をしながら作業を進めることが出来ていた。また、早くボタンを付けた生徒が遅れがちな生徒の先生役になり、丁寧に指導してくれていた。

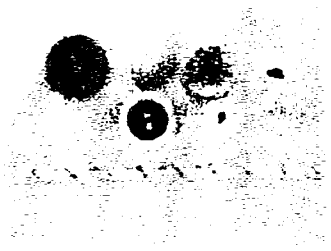
糸が何種類も入っている市販のボタン付け用の糸を準備し、生徒に自由に使用させたが、出来上がったものはボタンの種類も糸も個性的であった。ボタンと同色系の糸を選んだもの、ボタンとちがった色の糸を選んだものがいて同じボタンでも糸がちがうだけで雰囲気がちがうことに驚いていた生徒もいた。中には自分でイラストを描き上手くボタンをイラストの一部に取り込んだ生徒もいた。

生徒達は互いに布を見せ合い、ボタンの付け具合や飾りボタンの種類など見比べていた。最初全くボタンを付けることが出来なかった生徒も最終的には４つのボタンを付け、他の生徒からその上達を認められ嬉しそうにしていた。

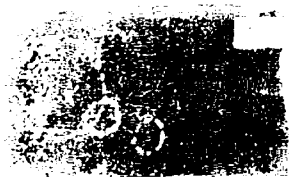
生徒の感想では一回目と二回目を比べ、「ボタンの足がしっかりつけられた」や「２回目の方が丈夫に付けられた」「一回目は服を着る時にボタンを通しにくそうだったけど２回目は上手にできた。」などの意見が上がってきた。２回したことで自己の変容を実感することが出来たようである。正しいボタンの付け方を思いだし、あるいは理解しちゃんとボタンを付けられたことを嬉しいと感じる生徒や、家庭でもボタン付けをやってみようとする生徒が多くあった。

しかし、生徒の中にはボタン付けを生活の中で自分がすることはまずないと思っている生徒もいて、学習意欲が低い生徒もいた。 苦手意識の強い生徒、自立度チェックで得点の低い生徒にややその傾向がみられた。自分らしい個性を発揮させる作品作りなどを通じて場数を踏ませ、糸と針に慣れさせることや、作品を作り上げる喜びを体験させながら、学習意欲を喚起させ生徒の自主的な取り組みを持続させることも大切であると感じた。

最初付けることが出来なかったボタン　（右端）



いろいろなボタン付けに挑戦



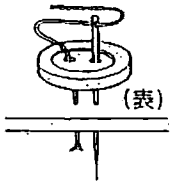
ボタンを付けた作品・小物作り

衣服の手入れと補修をしよう　　補修２　ボタンつけ

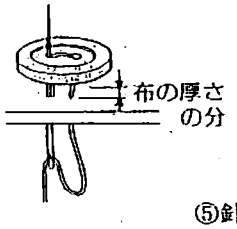
（1）年（ 5 ）番　氏名

【二つ穴ボタンのつけ方】

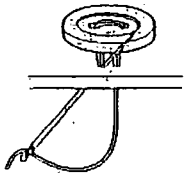
①つける位置に針を出し、
ボタンの穴に通す。



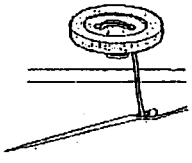
②布の厚さ分だけ糸をうかして
３～４回分糸をかける。



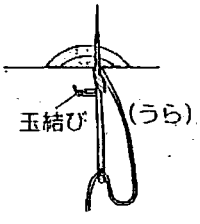
③ボタンと布の間に針を出す。



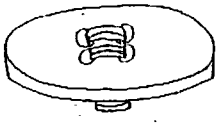
④ボタンと布の間に、
糸を３～４回かたくまく。



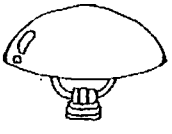
⑤針を裏に出し、
玉止めをする。



【四つ穴ボタンのつけ方】
◎四つ穴も二つ穴ボタンと同じつけ方で縫う。
糸が×（ばつ）にならないように糸をかける。



【足つきボタンのつけ方】
◎足つきボタンもつけ方は二つ穴ボタンと
同じ、つけ方で縫う。



１回目と２回目を比べて 2回目の方が、すごく足がしっかり付いてきた！
玉止めも、前と比べれば、すごく うまくなったと思います。

自己評価表						
	1，ボタンつけをすることができましたか。	(5)	4	3	2	1
	2，じょうぶにきれいにつけることができましたか。	(5)	4	3	2	1
	3，ボタンのつけ方がわかりましたか。	(5)	4	3	2	1
	4，あなたのつけたボタンの種類と数（2つ穴ボタン・四つ穴ボタン　　）					
	5，ボタンつけの実習を終えての感想					

ぜんぜんボタンのつけ方が分からなかったのに、
最後は、分かってよかった。

9　家庭Ａ（生活の自立と衣食住）（３）「衣服の選択と手入れ」学習指導計画（総時数１１時間）

次	小　題　材	実践的・体験的活動の工夫	評　価　内　容	指導と評価の一体化につながるポイント（自己の変容が実感できる場面の設定）	評価の手段	学習指導要　領
1	衣服のはたらき	・実生活を振り返らせ、衣服がどんなはたらきをしているか考えさせる。	・衣服のはたらきがわかる。	・衣服のはたらきについて考え、まとめることができたか。	観察 ワークシートの提出	Ａ（３）ア
2	コーディネート	・色画用紙を用いて自分に似合う色を見つけさせる。 ・自分の着たい衣服のデザインをする。	・自分に似合う色を見つけ、自分らしい着方の工夫ができる。	・自分に似合う色を見つけることができたか。 ・自分の着たい衣服のデザインができたか。	観察 ワークシートの提出 デザイン画の提出	Ａ（３）ア
3	衣服の選択と活用	・既製服につけられている表示を観察させる。	・既製服につけられている表示の意味を理解し、既製服の適切な選択について考えることができる。	・表示の意味が理解できたか。 ・表示を確認して購入することの重要性が理解できたか。	観察 ワークシートの提出	Ａ（３）イ
4 ～ 8	「衣服の手入れと補修」の指導計画参照（資料Ｐ２記載　）					
9 ・ 10	小物の製作 ・ファイルカバー ・ミニふきん 等	・基礎縫いを用いて小物を製作させる。	・ファイルカバーやミニふきん等の小物を製作することができる。	・学習した基礎縫いを用いて、小物（ファイルカバーやミニふきん等）を製作することができたか。	観察 作品の提出 自己評価カード	Ａ（３）ウ
11	資源や環境に配慮した衣生活	・不用になった衣服の活用の仕方を考えさせる。	・不用な衣服の活用方法を考えることができる。	・不用になった衣服の活用方法を考えることができたか。	観察 ワークシートの提出	Ａ（３）イ Ｂ（４）イ

（　　）年（　　）番　氏名（　　）

制服の手入れの仕方を調べよう

①自分の家で行っている制服の手入れの仕方（具体的に）を調べよう。

②制服の取り扱い絵表示を見て、手入れの仕方を調べよう。

書かれている取り扱い絵表示

↓	↓	↓	↓	↓	↓
意味					

★家庭での制服の手入れの仕方と制服の取り扱い絵表示に示されている手入れの仕方を調べてみて、自分が新しく発見したことやわかったこと感じたことなどを書きましょう。

◎制服の手入れの仕方がわかりましたか？

5　4　3　2　1

（　）年（　　）番　氏名（　　）

衣服の手入れと補修をしよう《洗濯》

1、洗濯機による洗濯の手順をまとめよう。

《手順》

（1準備）→（2点検・分類）→（3　　）→（4　　）→（5乾燥）→

（6仕上げ）→（7見直し）→（8　　）

2、くつ下を洗濯しよう。【くつ下の洗濯実習】　　実習日　　月　日（　）

くつ下の洗濯をしよう				
汚れのようす	【右足】	【左足】	必要な用具・用剤	
作業の手順	①水洗いのみの場合 1準備 2 3 4 5 6	②石けん又は洗剤で洗う場合 1準備 2 3 4 5 6 《選んだ用材とその理由》 用剤（　　） 理由		③重そうで洗う場合 1準備 2 3 4 5 6
結果				
自己評価	①手順にそって洗濯することができましたか。 5　4　3　2　1 ②きれいに洗いあげることができましたか。 5　4　3　2　1 ③くつ下の洗濯の仕方がわかりましたか。 5　4　3　2　1		感想	

衣服の手入れと補修をしよう　　補修１　まつり縫い

（　）年（　　）番　氏名（　　）

1，今までに、自分の衣服のボタンがとれたり、スカートやズボンのすそがほつれたりして困ったことはありませんか。また、あなたはその時どうしたかをくわしく書きましょう。

困ったこと（ブラウスのボタンがとれた等）	→	その時どうしましたか？

2，スカートやズボンのすそがほつれた場合に用いる縫い方を覚えよう。

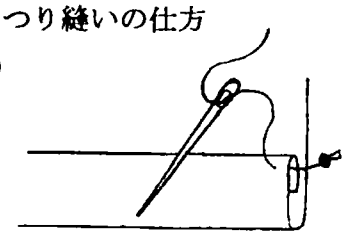
☆スカートやズボンのすそがほつれた場合に用いる縫い方　→　［　　］

☆まつり縫いの特徴　・表の糸の針目→（　　）

・裏の糸と糸の幅や傾き→（　　）

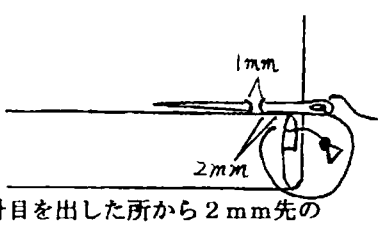
3，まつり縫いの仕方

①



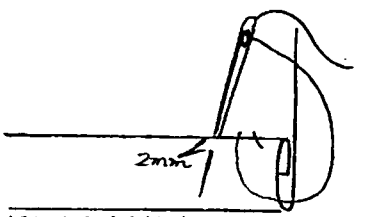
折り山の中に玉結びをかくすように一針目を出す。

②



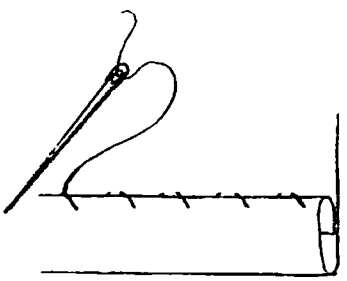
一針目を出した所から２mm先の折り山のすぐ上の布を真横に１mmほどすくう。

③



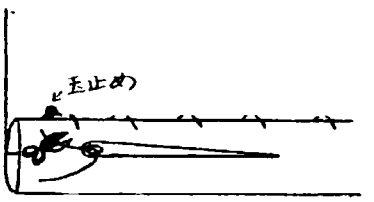
折り山を内側から２mm（１～２mm）の深さで手前にすくう。

④



針目が１cm（０．８～１cm）間かくになるように縫っていく。

⑤



最後は、折り山のすぐ上の布を１mmほどすくった後、玉止めをし、折り山をすくって針をぬき、糸を切る。（こうすると玉止めが折り山の中にかくれる。）

友だち（　　）からの感想（良いところや頑張っていたところ、アドバイスなど）

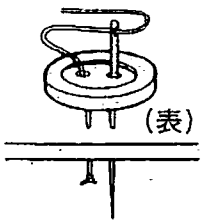
自己評価表						
	1，まつり縫いをすることができましたか。		5	4	3	2	1
	2，じょうぶにきれいに縫えましたか。		5	4	3	2	1
	3，まつり縫いの仕方がわかりましたか。		5	4	3	2	1
	4，あなたの選んだ印の量は？	印無し	1/3印がついている			2/3印がついている	
	5，まつり縫いの実習を終えての感想						

衣服の手入れと補修をしよう　　補修２　ボタンつけ

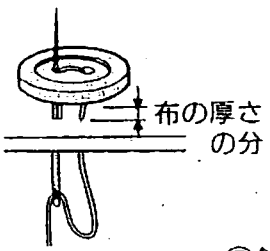
（　）年（　　）番　氏名（　　）

【二つ穴ボタンのつけ方】

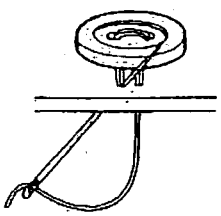
①つける位置に針を出し、
ボタンの穴に通す。



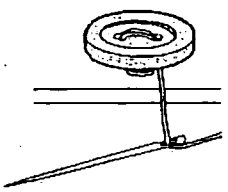
②布の厚さ分だけ糸をうかして
３～４回分糸をかける。



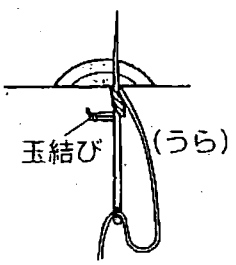
③ボタンと布の間に針を出す。



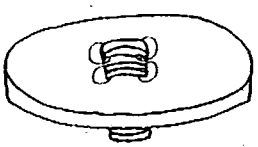
④ボタンと布の間に、
糸を３～４回かたくまく。



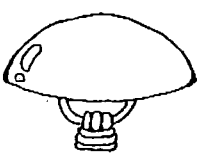
⑤針を裏に出し、
玉止めをする。



【四つ穴ボタンのつけ方】
◎四つ穴も二つ穴ボタンと同じつけ方で縫う。
糸が×（ばつ）にならないように糸をかける。



【足つきボタンのつけ方】
◎足つきボタンもつけ方は二つ穴ボタンと
同じ、つけ方で縫う。



１回目と２回目を比べて

自己評価表						
	１，ボタンつけをすることができましたか。	5	4	3	2	1
	２，じょうぶにきれいにつけることができましたか。	5	4	3	2	1
	３，ボタンのつけ方がわかりましたか。	5	4	3	2	1
	４，あなたのつけたボタンの種類と数（　　）					
	５，ボタンつけの実習を終えての感想					

美祢市支部